

Request

消防団に
求められる
こと

- 要請① 地域の守り手として、安全・安心なまちづくりに寄与すること
- 要請② 火災のみならず、災害による被害を軽減するほか、災害時の傷病者等への対応
- 要請③ 守るべき伝統は守り、変えるところは変え、急速に変化する時代において、消防力・防災力の維持及び向上に努めること
- 要請④ 自らの地域は自らが守るという使命感に基づき、地域の声に耳を傾け、持続可能な消防団活動のスタイルを模索し続けること

Purpose

目的

消防団を中核とした地域防災力の充実・強化を図り、もって飯田市及び周辺地域の安全・安心のまちづくりに寄与すること

Policy

基本方針

- 方針① 地域の守り手として地域とともにある消防団
地域の守り手として、安全・安心のまちづくりに寄与することを基本としつつ、生業における地域経済への貢献、地域に住まう地域人としての役割を果たし、地域とともにある消防団を目指す。
- 方針② コンパクトな組織編成と定数
消防力・防災力を低減させないことを前提に、活動実態に即したコンパクトで持続可能な組織編成を実現し、適正な定数による活動と団員確保に努める。
- 方針③ 活動の見直しと魅力の向上
訓練等を精査し活動を可能な限り短い日数・時間でできる工夫を続ける。また、処遇改善を行うとともに、専門資格取得助成等により活動の魅力を高める。
- 方針④ 防災力の維持・向上のための資機材の整備
消防力・防災力を維持・向上に向け、消防機器等の研究及び必要資機材を整備する。また、必要な機能に加え、男女共同参画の推進、団員が集い地域づくりの拠点となる詰所の整備に努める。
- 方針⑤ 安全な活動を実現する装備の充実
大規模災害発生時、地域防災の要として活動できるよう救急救護、避難誘導、避難所の設営等が行える地域の守り手を目指し、日頃の訓練に加え、これらの活動を行う消防団員の安全確保のための安全教育・安全装備品の充実を図る。

Project

前計画から
の変更点
主な事業

System

組織編成

- ①実態に即した組織編成
予防広報班の廃止
- ②組織編成に基づいた団員定数
団員定数1,345名から1,205名へ変更
組織編成の変更に伴う団員定数140名の減

新

- ③消防ポンプ車は積載車へ変更配備
車種を車向重量3.5t未満の小型動力ポンプ付積載車に変更し、AT限定及び普通免許でも運転できる車両に更新配備
- ④多機能型積載車は維持
令和2年度末で6台が配備される多機能型積載車は維持
大規模災害等に備え、装備品の充実を図る

Machine

機械整備

人材育成

Human Resource

新

- ⑤各種免許等取得費用助成制度の充実等
処遇改善の実施
資格や講習などに係る費用や準中型自動車免許取得費用の助成制度の充実
- ⑥支援団員及び機能別分団
支援団員の「平日の昼間時」に限定していた活動時間の制限を撤廃
学生(飯田女子短期大学)分団の設置についての調査・研究

新

- ⑦詰所整備
団員が集い地域づくりの拠点となる詰所の整備
- ⑧耐震性貯水槽の整備
- ⑨安全装備品等の整備
消防車両へのドライブレコーダーやバックモニターの整備

詰所・資機材整備

Resource

地域防災力

「命を守る消防団」
「地域の守り手
としての消防団」

飯田市消防団の概況

組織 (令和2年4月1日現在)

飯田市消防団	1 団
飯田市消防団の方面隊数	5 隊
飯田市消防団の分団数	18 分団
飯田市消防団の部数	41 部
飯田市消防団の班数	264 班

人員 (令和2年10月1日現在)

飯田市消防団条例定数	1,345 名
飯田市消防団の実員数	1,107 名
うち女性団員数	67 名
うち支援団員	54 名

就労形態

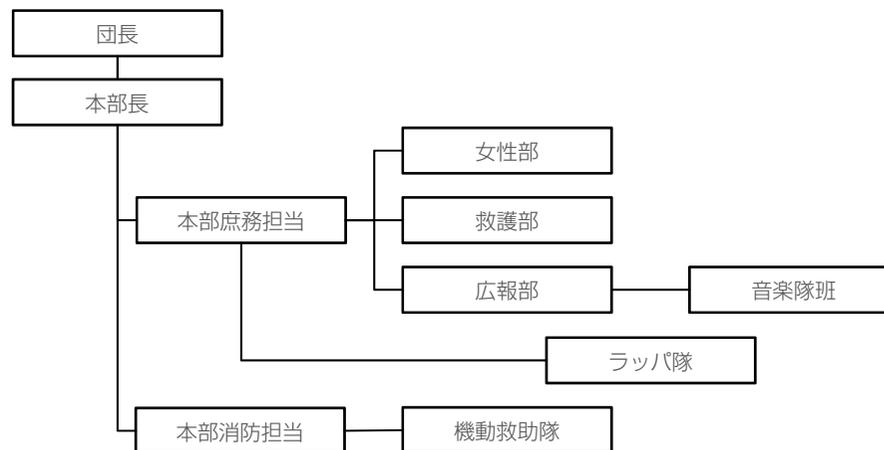
被雇用者	949 名
自営業者	18 名
家族従業者	64 名
その他	76 名

資機材 (令和3年3月31日予定)

ポンプ自動車	17 台
小型動力ポンプ付積載車	51 台
小型動力ポンプ付多機能型積載車	6 台
小型動力ポンプ	10 台
車載用無線機	51 台
携帯用無線機	108 台
小電力トランシーバー	429 台
無線受令機	5 台

第12次消防力(消防団)整備計画 団本部及び分団編成図

飯田市消防団 団本部編成図



飯田市消防団 分団編成図

